

## 第2回 認知症条例ワークショップ実施概要

### 実施日時

令和3年5月21日（金）14:00～16:00

### 開催場所

市役所4階 S2・3・4会議室



### 実施内容

- ・趣旨説明
- ・前回の振り返り
- ・地域の取り組みの紹介
- ・グループディスカッション  
(本人グループ、家族グループのように同じ立場の方同士のグループ分け)  
ディスカッションのテーマの例
  - ▶ 地域の取り組みを聞いて感じたこと
  - ▶ それぞれの立場で、条例に盛り込みたいことについて
  - ▶ 条例の名称
- ・各グループで話し合った内容の共有
- ・まとめと今後の予定

### 参加者（30人）

内訳	人数	備考
コーディネーター	1	認知症介護研究・研修東京センター 永田久美子氏
認知症の人本人	5	
家族	4	
関係機関	2	
民間事業所	3	スポーツクラブ2、ホテル1
地域の方	5	浦安介護予防アカデミア傾聴班2、地域サロン関係者2、地域住民1
事務局	10	認知症地域支援推進員5、高齢者包括支援課5

## 第2回 ワークショップ（令和3年5月21日）主な意見

### 地域での取り組みの紹介

#### お世話役：

サロンは今年で13年目。先生が〇〇会の会長をやっていて、自分が〇〇委員をやっていたころに知った。（先生が）老人会の方に誕生日カードを書いたり、浦安市の美術展に出展されたりしていて、これは地域の財産だと思い、なんとか活かしたいと思い、「教えていただけませんか」と声をかけた。ボランティアでやっていただけないか聞いたら、快く受け入れてくれた。先生が上手なため、自分たちも少しずつ腕があがってきた。

先生は7年たったころから認知症の症状がでてきたが、絵に関しては影響していない。自分たちも助かるし、先生のためにもいいと思う。奥さんに協力してもらって続けている。

#### 参加者：

会を立ち上げるのも大賛成で、ぜひ先生にやってもらいたいと思っていて、初回から参加している。先生が一筆入れてくれるだけで、自分の絵が見違えるようにうまくなった気がしてうれしい。「わあ」と感動すると、先生も喜んでくれる。先生は時間が不正確になった点はあるが、それは誰にでもいえることで、自分も忘れてしまうことも増えているため、全く違和感はなく、認知症だと信じられないくらい、普通に接している。非常にありがたいと思っている。先生は非常に穏やかなので、毎回楽しく参加している。

#### Tさん（先生・本人）：

楽しんでいる。絵というのは上達するというより、長いことみんなと一緒に楽しむことだと思っている。とにかくみなさんが楽しくやっていくには、自分自身が楽しくないといけないと思っている。自分にとってもサロンが今の生活の中で一番楽しいこと。これからも喜んで一緒にやりたいと思っている。自分の会の方は上手になろうということは意識していると思うが、上手にならないことを先生の責任にしちゃうというのは一切ない。先生冥利につきる。

## 第2回 ワークショップ（令和3年5月21日）主な意見

### 本人グループ

- ・ 歩くことを大切に、規則正しく食事をとる、間食も適度にし、健康に気を付けている。
- ・ 持病はなく、アルコールで（適度な飲酒で）毎日消毒している。地域のサロンに参加していて、そこで出るお菓子も楽しみ。
- ・ 20代からランニングを今も続けている。川や森に散策も行く。
- ・ 自分が住んでいる地域ではあいさつするとあいさつが返ってくる。
- ・ （全員）認知症があるからといって、家に閉じこもるのではなく、外出することも心がけている。迷ってしまったときは（躊躇なく）人に聞くようにしている。聞いたら全員の方が教えてくれる。
- ・ 浦安はいいまち。
- ・ かかわった人には何かあったらちょっとしたプレゼントをして気持ちを伝えるように心がけている。こうやってせつかく集まって、それで終わりではなくお付き合いができれば。住所や電話番号の書いたリストが欲しい。
- ・ （条例に関して）短い言葉がいい。長い文章は読むことが億劫になる。

### 認知症地域支援推進員の感想

- ・ みなさんユーモアがあって笑いの絶えないグループワーク
- ・ 急に仲間を作ると簡単ではないと思う。先生がもともと地域を盛り上げる活動をやっていて、つながりがあったことがよかったのかな、仲間がいたから乗り越えたのかなと感じた。
- ・ みなさん言葉遣いが丁寧、声をかけられた人も答えられると思う。
- ・ あいさつができるまちは、人との関わりができ、顔が見える関係になる。そうしていくことで認知症も受け入れていけるのではないか。

## 第2回 ワークショップ（令和3年5月21日）主な意見

### 家族グループ

- ・初期の状態でもどこにも引っかかり、一番困った。どこかに所属するまでの期間、家族だけで背負いこむのが非常にしんどい。空白の期間をなくしてほしい。
- ・自分のやっていること、かなり犠牲にしている。
- ・今日午前中一人の時間があったが、何か月、何年ぶりという感じだった。家に一人でいる時間が全くない。どこに行くにも常に一緒にいる。自分が疲れようが、ここでやめて進んじゃったらどうしようと、常に強迫観念がある。とりあえずもういけるところまでいこう、という状況。
- ・有料老人ホーム、ピンからきりまでだが、あまりかまってくれないと感じている。
- ・目が離せない現状が続いている。
- ・近くにお惣菜が売っているのがありがたい。
- ・ヘルパーの利用を嫌がり、家族が介護するしかない。
- ・診断後、病院から丸投げされた。
- ・社会から分断・孤立しないサービスをつくってほしい。
- ・周囲から、なんで施設に入れないのかという視線。
- ・職場に家族が認知症であることを伝える利点がない。
- ・家に一人でいる時間が全くない。どこに行くにも常に一緒に。
- ・事前に知らないことが問題、勉強する場があるといい。
- ・ある日手におえない家族が発生したらどこに相談すればいいか。
- ・ストレスの溜まらない範囲で自分の考え方を変えてみる。

↓

### 家族の役割・できそうなこと・大切にしたいこと

- 介護していた体験を、情報を発信する。
- できるだけ早期に包括等に相談する
- 介護サービスだけでなく、地域のインフォーマルサービス等を積極的に利用し、リラックスする時間を持つことを心がける。介護を一人で抱え込まない。
- 介護者同士の交流の時間を大切にする

### 周囲への期待

- 診断後のフォロー体制の充実…医療機関
- 介護者になる前からの、正しい理解…地域住民
- インフォーマルサービスの充実…行政・地域住民
- 相談機関の周知…行政、地域、企業
- 中・重度の方の施設での自分らしい暮らし…関係機関

## 第2回 ワークショップ（令和3年5月21日）主な意見

### 地域グループ

- ・ 認知症の方のところに話に行くと、喜んでくれる。それは自分も楽しいし、うれしい。
- ・ 私たちの地域は勉強している。接し方など学んでいる。認知症の方もいっぱいいる。
- ・ 家族の対応が本人の表情に出てくる。
- ・ 関心がなかった。身近に認知症の方がいなくて知らない。→どう関心を高めていくかが大切。関心を高める機会をどうするか。
- ・ 地域住民として、認知症のどの段階の人と関わるか決めるべき。
- ・ 早期に認知症を発見してあげることも大切。
- ・ (一人でさみしいという人が多いことに対して) つながりも市・地域として必要。人とのネットワークは大切な要素。(自分たちにできることとして) そういった方々とのふれあいができるかもしれない。
- ・ 一人の人を引っ張り出すようにしているが、ストレスを感じる人もいる。
- ・ ボランティアは有償として、人を確保しないと、集まらないのでは。
- ・ 大きい声であいさつすること大切。笑顔が大切。
- ・ 物忘れがあっても、笑ってもう一度聞く勇気。嫌とは言わず、笑顔で返してもらえらると思う。

### 地域住民としてできそうなこと、やっていること

- ・ 認知症の方のところに話に行く。
- ・ 寂しいと感じている人のところに行き、ふれあいを持つ。
- ・ 一人の人を引っ張り出すようにしているが、ストレスを感じる人もいる。

### 条例に入れたいこと

- ・ 仲間は大切、人と人のつながりが大切。「つながり」という言葉
- ・ 声かけしやすいまちづくり
- ・ 「やさしさ」
- ・ 市としてこういう考え方でまちづくりをしたいということを表現する

## 第2回 ワークショップ（令和3年5月21日）主な意見

### 事業者・関係機関グループ

- ・発達障害、躁鬱、色々な方の中に認知症の方もいるという感覚。産業的にみんな健康なことが目的。
- ・個人飲食店等に認知症関連のパンフレット配布等も可能。
- ・本人も家族も暮らしやすくしたい。
- ・デイサービス以外に行く場がない。気力もなくなっている。
- ・認知症の方々が集まって、ホテルのレストランで1, 2か月に1回食事会をしている。家族にとっても本人にとってもとても大切な時間になっている。
- ・呼び寄せが多い、家族支援が大切。
- ・地域に出向いていくこともやっていきたい。それこそホテルに行って運動を教えたり。居場所作りが大切だと思う。
- ・家族支援の難しさ、支援の薄さ→スモールステップが大切だ。居場所作りはスモールステップが大事だと思う。先ずは大々的な周知よりも包括から必要な人に紹介してもらい、繋げてもらう方がうまくいくと思う。コラボをぜひ投げかけて欲しい。
- ・以前認知症サポーター養成講座を開催した時、チラシを貼ったら「実は家族が認知症で…」と話してくれた利用者もいた。
- ・〇〇のバスを保有しているが舞浜から出せない。足が無くて参加できない認知症の方もいますよね。
- ・家族が何をしてほしいのか。家族の声を知りたい。家族や本人の声を聞けるような機会づくりが大事だと思う。
- ・車椅子で入れるトイレがあり、事業所が食事会でよく利用している店がある。行きやすさも大切。
- ・認知症サポーター養成講座やキャラバンメイト研修などをスタッフが受けて知識を持って準備しておくことは大切。
- ・認知症の方の雇用を守ることも大切。特に若年性認知症の方について。

### 企業の役割・できそうなこと・やりたいこと

- ・個人飲食店等に認知症関連のパンフレットを設置
- ・認知症の方、家族が安心して外食ができる
- ・地域に出向いて居場所づくりを一緒にやる
- ・本人や家族の声を聴く機会をつくる
- ・バリアフリーの設備
- ・スタッフが認知症サポーター養成講座を受けて準備しておく
- ・認知症の方（特に若年性）の雇用を守る